

Web 情報紹介収載

Web 情報紹介【2017No.17】(HP 収載)

Web Site : Phile-web オーディオニュース

URL : <http://www.phileweb.com/review/article/201702/08/2414.html>

関連 URL : <http://ifi-audio.jp/microidsdbl.html>

記事題名:高級機に匹敵する表現力 — iFI-Audio の最新 USB-DAC「micro iDSD BL」を聴く

関連記事 : Net Audio Vol.25 2017 Spring 号 P36 「micro iDSD のすべてがグレードアップ micro iDSD Black Label」

管理者 : Phile-web

収載日 : 2017 年 2 月 8 日

備考 :

上記サイトから紹介記事を引用して下記に示します。また、上記ディーラーのサイトには詳しい技術面の紹介がされていますし、上記 Net Audio にも記事があります。試聴の印象からすると、現在使用している旧モデルの「micro iDSD」より音質向上が図られているようなので機会を見て試聴したいと思っています。



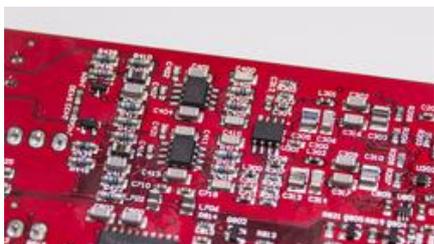
「■圧倒的なスペックを継承しつつ、アナログ回路を大きく進化させた
そもそも、micro iDSD の強みは先進的なデジタル技術を軸とした USB ドライバー周りの作り込みだ。ASIO ネイティブ、DoP 方式それぞれで DSD11.2MHz(最大 24/6MHz)に対応。これは、DAC としても極めて早い段階での実現だった。デジタル部の核となる DAC チップについては、TI 製「DSD1793」を 2 基搭載する従来機の構成を踏襲している。しかし micro iDSD BL では、フェムト秒クラスの精度を持つ AMR Global Master Timing クロックシステムをさらにブラッシュアップして、超低位相ノイズおよび超低ジッターを実現。より S/N の良いサウンドを獲得している。



micro iDSD BL のフロントパネル。よく見ると、XBass と 3D ホログラフィックのスイッチに「+」という文字が追加されている



こちらはリアパネル。こちらは従来の micro iDSD から大きな変更はない
アナログ部では低音増強機能「XBass+」や立体音場処理機能「3D ホログラフィック+」といった独自機能の再チューニングを実施すると共に、TI 社の協力のもと、オリジナルのオペアンプを開発。チップ内部のウエハーに HCOFC 製リードフレームと 4N ゴールド・ボンドワイヤーを埋め込んだ特別な仕様としており、DAC 段のパワーレギュレーター用「OV2628」とアナログステージ用「OV2627」の 2 種類が搭載されている。



micro iDSD BL の進化点として元も注目すべきは、テキサスインスツルメンツに発注したオリジナルのオペアンプを搭載したこと。これにより、アナログ回路の大幅なグレードアップを実現した



micro iDSD の電源部に搭載された OS-CON。可能な限り高品位なパーツを投入することで、S/N 感や空間表現力、質感表現力など音楽に関わる重要な要素を向上させた。また音質の良さで定評のある導電性高分子アルミ個体電解コンデンサー「OS-CON」をこのアナログステージ電源用に用いたほか、デジタル回路用電源、ヘッドホンアンプ用電源にも採用するなど、計 12 基もの大量投入を実現した。ほかにもパナソニック製の面実装フィルムコンデンサー、KEMET 製タンタルコンデンサーを新たに採用。さらにはメルフ抵抗など、こだわりのパーツを要所ごとに取り入れ、サウンド面も大きく進化した。」